

4 取組事例の紹介

他の団体の取組内容を参考にしよう!

要配慮者避難支援の取組事例を紹介します

取組事例 ①



清田区 清田地区 「清田有楽町内会」

町内会の会員世帯数 約380世帯

○避難行動要支援者名簿情報(21~24ページ)を活用している団体です。



会長 佐藤 静也 さん

名簿情報を活用した訪問を通じて見えてくることを大切に取組んでいます

取組を始めたきっかけを教えてください。

札幌市から避難行動要支援者名簿情報の提供の仕組みについて説明を受けた時に、町内会として要配慮者の避難支援の取組に対する危機感を抱きました。「自分たちが取組まなければ、地域の繋がりが薄れていくのでは」と考え、平成28年に名簿情報の提供を申請しました。

取組の内容を教えてください。

毎年、札幌市から更新された名簿情報を受け取り、新たに名簿に掲載された方を中心に、自宅を訪問し状況を聞き取り、避難の支援が必要な場合には、町内会の役員間で対応を検討し、災害時に必要な支援内容などを記載した個別避難計画を作成しています。対象となる要配慮者にご家族などの支援者協力者がいた場合には町内会役員からも協力を依頼し、いない場合には、町内会役員が支援者となって対象の方の個別避難計画を共有し、災害の発生に備えています。

取組で工夫されている点を教えてください。

地域内の日頃のコミュニケーションを深めておくことが大切と考え、気軽に集まることができる機会として月1回地域のサロンを開くなど、積極的に地域交流の場を設けています。

取組むうえで大切にしていることがあれば教えてください。

町内会だけでは地域にお住まいの要配慮者の把握が難しいため、名簿情報を活用した個別訪問の重要性を実感しています。個別避難計画の項目がすべて埋まらない場合もありますが、訪問を通じて、実際にお一人お一人の話を聞き取り、情報を得ることで見えてくるのが大切と考えています。

ここが取組のヒント

- ▶ 名簿情報を活用して、対象者を訪問して状況を聞き取り、支援の必要性や支援内容を考えています。
- ▶ 災害時に円滑に支援するために、日頃のコミュニケーションを深めることを大切にしています。

POINT!

個別避難計画は、最初からすべての欄を埋めることができなくても構いません。計画の作成を通じて、地域にお住まいの支援が必要な方の状況を知り、地域でできる範囲で支援内容を考えることが大切です。

札幌市内で、実際に要配慮者避難支援に取り組んでいる地域の団体に、取組を始めたきっかけや具体的な取組の内容などについてお話をうかがいました。(掲載している4つの団体のお話は令和7年3月時点の内容です。)

取組事例 ②



手稲区 前田地区 「前田ゆたか町内会」

町内会の会員世帯数 約550世帯

○避難行動要支援者名簿情報(21~24ページ)を活用している団体です。



福祉部長 野瀬 政裕 さん

時間がかかっても地域の理解や協力を得ることを大切にして取り組んでいます

取組を始めたきっかけを教えてください。

私たちの町内会の地域は新川に隣接しているため、水害を想定した防災の取組が必要でした。そのためには、地域にお住まいの災害時の避難に支援が必要な方を把握することが必要だと考え、平成30年に避難行動要支援者名簿情報の提供を申請し、以降毎年提供を受けています。

取組の内容を教えてください。

名簿に掲載されている対象者の世帯を訪問し、本人や家族から情報を聞き取りながら、聴覚に障がいのある方や寝たきりの方といった、お一人では避難することが困難な方に対して、個別避難計画を作成しています。支援が必要な方お一人に対して、町内会から2名の支援者を決めており、災害時に支援できる体制づくりを行っています。また、対象の方の支援に必要な情報がひと目で分かるように独自に作成した「ふれあい安心カード」に記入していたことで、緊急時の対応がスムーズに行えるようにしています。



前田ゆたか町内会の「ふれあい安心カード」

取組で工夫されている点を教えてください。

町内会で避難支援についてのワークショップを開催したことを通じて、地域内の取組への理解が深まったと感じています。また、有事の際、円滑に協力し合えるように、見守り活動や町内会のイベントなどを実施して、日頃から顔の見える関係性の構築に努めています。

取組むうえで大切にしていることがあれば教えてください。

もともと、町内会で見守り活動は行っていたのですが、名簿情報の提供を受けてからの体制づくりには苦労しました。最初からすべて取組もうとするのではなく、時間をかけてでも地域内の理解や協力を得ながら体制を整えていくことが大事だと思います。また、町内会の体制的にも、名簿情報に掲載された方すべてを支援することは難しいので、まずは訪問によりお一人お一人の状況を確認しながら、より支援が必要な方に対して、支援を行っていくことも取組を続けていくうえで大切なことと考えています。

ここが取組のヒント

- ▶ 名簿情報を活用し、訪問・状況の聞き取りを通じて、個別避難計画を作成し、支援体制を作っています。
- ▶ 日頃の見守りや地域行事を通じて、顔の見える関係を作ることで、円滑な取組につなげています。

POINT!

避難支援の取組は、お一人ですることではありませぬので、地域内の理解と協力が不可欠です。無理せず、一歩ずつでもかまいませんので、地域でできる範囲で取り組むようにしましょう。

4 取組事例の紹介

取組事例 ③



厚別区 青葉地区 「白樺会」

町内会の会員世帯数 約400世帯



会長 横藤 雅人 さん

地域の皆さんに『ここに住んでいてよかった』と思ってもらえれば、という気持ちで取り組んでいます

取組を始めたきっかけを教えてください。

「共助の仕組みを作りたい」という思いから、地域にお住まいの災害発生時に支援が必要な方に対して、要支援者としての登録を促したのが始まりです。当初は、5名のメンバーからスタートしました。

取組の内容を教えてください。

白樺会では、年3回程度全戸に配布している「防災だより」などで、要支援者への登録を呼びかける方法で災害時に支援が必要な方の情報を集めており、同時に災害時に安否確認や連絡などのサポートを行う「防災サポーター」も随時募集しています。防災サポーターは、定期的に防災情報を共有するサポート会議を行い、登録している要支援者のところへ、年3回程度の訪問活動をしています。なお、防災サポーターを募集する際には、危険を伴う活動は原則として想定していないことを明確にしています。最近では地域のつながりが薄くなっているとよく言われていますが、この活動を通じてご近所付き合いができるようになりました。お一人暮らしのお年寄りの方から「頼りにしています」という声を聞くと、自分たちの取組が役に立っていることを実感できます。



▲白樺会が年3回発行している「防災だより」

取組で工夫されている点を教えてください。

災害時の安否確認用に玄関に掲示する「要支援登録家庭用掲示カード」や、緊急時の連絡先をまとめた「白樺会便利シート」を独自に作成し配布することで、各家庭で緊急時に役立ててもらえるようにしています。

取り組むうえで大切にしていることがあれば教えてください。

避難支援の取組は、他の町内会行事や地域づくりの活動と同じで、自分たちの暮らす地域にとって大切なことと考えています。地域住民の皆さんに、『ここに住んでいてよかった』と思ってもらえれば、という気持ちで取り組んでいます。



▲2024年度版 白樺会便利シート

ここが取組のヒント

- ▶ 会報誌配布による手上げ方式(13ページ)で支援が必要な方の名簿を独自に作成し取り組んでいます。
- ▶ 支援者を募集する際に、できるだけ協力してもらえよう、お願いしたい役割を明確にしています。

POINT!

災害時の避難支援の取組は、特別な活動ではなく、地域の行事やイベント、見守り活動などといった、日常の活動の延長線上にあるものと考えて取り組んでみましょう。

取組事例 ④



南区 藻岩地区 「川沿中央第5町内会」

町内会の会員世帯数 約240世帯



会長 村上 剛 さん

「お互い様」の気持ちで、明るく取り組んでいます

取組を始めたきっかけを教えてください。

私たちの町内会の地域では目配り、気配り、心配りの「3配り」を理念として、福祉活動に取り組んできました。こうした見守りの活動の一環として、高齢者などの避難支援にも取り組んでいこう、ということでこの取組を始めました。

取組の内容を教えてください。

町内会内で、地域にお住まいの70歳以上の方のうち、お一人暮らしの方や夫婦のうちお一人が病気の方など、災害時の避難などに支援の必要性が高い方を、ご自宅への訪問や電話で状況を聞き取り、リストアップしています。リストアップした方に対して、支援の担当者が月1回ペースで様子を見に行くなど、日ごろから見守り活動を行っています。

取組で工夫されている点を教えてください。

地域内にある病院と、大規模な災害時が発生した際に避難所としての利用や介助の協力について、地域独自に協定を締結しています。今後は病院と合同の避難訓練を行うなど、より一層の連携を図っていきたいと考えています。

取り組むうえで大切にしていることがあれば教えてください。

実際に災害が発生した際に、スムーズに避難支援に取り組むためには日々のコミュニケーションが大切だと考え、できるだけ日ごろから話し相手になれるように心がけ、『お互い様』の気持ちで明るく取り組んでいます。また、役員の高齢化も進んでいることから、フットワークを軽くして活動を続けていくため、地域の若い方に自分たちの暮らす地域づくりに、もっと参加してもらえよう取り組んでいければ、と考えています。

ここが取組のヒント

- ▶ 訪問・電話などによる聞き取りを通じて、支援が必要な方の名簿を独自に作成し取り組んでいます。
- ▶ 地域内にある民間企業などの関係団体に協力してもらうことで、取組がよりよいものになります。

POINT!

災害時に円滑に避難支援を行うためには、お互いに顔見知りになっておくことが大切です。まずは、日頃の見守り活動から始め、ある程度関係性ができてから、避難支援に取り組むのも一つの方法です。

- 要配慮者の情報の集め方には、取組事例①や取組事例②のように札幌市が提供する避難行動要支援者名簿情報を活用する方法(21~24ページ)のほか、取組事例③のような手上げ方式と取組事例④のような同意方式があります(13ページ)。

- 避難支援の取組においては、訪問やお電話等によって、要配慮者ご本人やご家族から直接情報を聞きとって、必要な支援を考えていくことがとても重要です。紹介した各団体の取組を参考にしながら、自分たちの地域に合った方法で要配慮者避難支援に取り組みましょう。